

生活構造ニーズから探るソーシャルワークマインド

—生活保護定時制高校生の修学継続要因分析から—

山口県立大学 内田充範 (006870)

キーワード: 専門知識、当事者ニーズ、コーディネート

1. 研究目的

ソーシャルワークマインドに関しては、保正が「各人の形成した譲れない核」であり、「その人の中で大事にされ、そこに立ち戻りながら実践を行うもの」と述べている。しかし、その一方で、「抽象的な概念であり、具体的に何を指すのか、どのように修得していくのか」と述べているように明確な定義はされていない。

本研究は、保正が提示しているソーシャルワーク実践能力の3要素のうち、「ソーシャルワーカーに対する要求や義務を遂行するための価値・知識・技術を適切に統合して発揮する力」に着目して、利用者の生活構造ニーズに対応するソーシャルワークマインドの必要性を考察する。また、その過程において、『誰もが支え合う地域の構築に向けた福祉サービスの実現—新たな時代に対応した福祉の提供ビジョン—』（厚生労働省 2015）で提唱されている「コーディネート人材」としてのソーシャルワークマインドについて明らかにすることを目的とする。

2. 研究の視点および方法

A市に居住する生活保護受給世帯の定時制高校生3名に対して、対象者の中学校時代から現在の定時制高校における学習及び生活全般及び将来の生活について自由に語ってもらうという半構造化インタビューを行った。その内容を分析することによって、生活構造モデルを構築するとともに、各生活場面のかかわりにおけるソーシャルワーク視点を明らかにした。明らかになった生活構造およびソーシャルワーク視点を分析することで、ソーシャルワークマインド及びその醸成過程を考察した。

3. 倫理的配慮

研究におけるインタビュー調査は、日本社会福祉学会の研究倫理指針に基づき、倫理的配慮のもと実施した。また筆者が所属する大学の研究倫理委員会の承認を得たうえで、調査対象者に対して、研究目的、個人情報保護、データの取り扱い、同意取り消しの権利、発表の許可などについて文章と口頭で説明し、同意を得た。なお、調査対象者が未成年であるため、同時に保護者の同意も得た。インタビューデータに関しては、個人が特定化されないよう匿名性を確保する観点から、内容の忠実性が確保される限度において省略、改変している。

4. 研究結果

まず、生活保護世帯の定時制高校生が現在順調に修学を継続している要因として、[自分のことを思ってくれる人の存在]、[環境の変化]、[学習内容の理解]、[就職への意欲]、[自己管理能力の修得]の5項目に整理し、その構造を明らかにした。次に、これらの就学継続要因を促進する支援者のかかわり方が、非審判的態度と傾聴の姿勢に基づくパートナーシップ、エコロジカル視点に基づく個別化によるエンパワメント支援、自己肯定感の醸成へとつながるストレングス視点、自己選択・自己決定というソーシャルワーク視点に似た姿勢であることを導き出した。

このように、生活構造の各場面においては、家族、学校の先生、友人、アルバイト先の上司・同僚等のソーシャルワーク視点に似た関わりが修学を支えているが、その基盤となっているのは本人を思う心であり、そこには、ソーシャルワーク理論による裏付けはない。また、各人はそれぞれの生活場面において、個別に関わっていて、高校修学全体をとらえたいうえで、各人をコーディネートする者も存在していないことが明らかとなった。

5. 考察

ソーシャルワークマインドは、社会福祉教育課程を修了しソーシャルワーク理論等の専門知識を修得したうえで、当事者ニーズに応えるソーシャルワーク実践を重ねることによって醸成されるものである。

なぜならば、ソーシャルワーカーには、定時制高校生の修学継続を促進している人々のように、単に何らかの困難を抱えた人を支えるというだけでなく、その支援の基盤にソーシャルワーク理論や技術などの専門知識が求められる。その基盤となる専門知識は、社会福祉教育において修得されていくものであり、その証となるのが社会福祉士資格と考える。

次に、ソーシャルワーカーは、当事者ニーズに応えるために、当事者の置かれた環境やそこにかかわる人との接点に介入していく。当事者を取り巻く人々はそれぞれの生活場面において当事者に対して自分の持てる力を発揮しながら関わっているが、それらは、家族愛、教育論、人間関係等に基づくものである。これに対して、ソーシャルワーカーは、当事者の抱える課題を解決していくためのかかわり全体を鳥瞰しながら、それぞれの人々の関わりが当事者にとって有効に機能するようコーディネートしていく。ここにも、専門職としてのソーシャルワーカーと家族、学校の先生、アルバイト先の上司や同僚との違いがある。さらに、このコーディネート力は、ソーシャルワーク実践において関わる人々をつなぎ、ひとつの実践経験で得られた人的・社会資源を今後の実践に生かしていくネットワーク構築へ発展していくと考える。

【付記】本研究は「JSPS 科学研究費補助金・挑戦的萌芽 課題番号 15K13087」の研究成果の一部である。